

平成26年度全国学力・学習状況調査に係る 厚木市立小・中学校の調査結果について

市立小学校6学年及び中学校3学年を対象に、平成26年4月22日に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。教育委員会では、今回の分析結果を踏まえ教育施策の成果や課題等を把握・検証し、今後の教育施策に反映するとともに、市立各小・中学校においては、校長のリーダーシップのもと、各教員が指導内容・方法の改善を進めてまいります。

1 調査の概要について

(1) 調査の対象学年 小学校第6学年及び中学校第3学年

(2) 調査の内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

・主として「知識」に関する問題 国語A、算数A・数学A

・主として「活用」に関する問題 国語B、算数B・数学B

イ 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査

・学校に対する調査

(3) 調査日 平成26年4月22日（水）

(4) 調査に参加した児童・生徒数

【小学校】

国語A	国語B	算数A	算数B	児童質問紙
1,981人	1,981人	1,981人	1,981人	1,981人

【中学校】

国語A	国語B	数学A	数学B	生徒質問紙
1,989人	1,993人	1,994人	1,992人	1,989人

(参考) 全国・県・市の公立学校の参加校数

	小学校	中学校
全 国	20,203校	9,802校
神奈川県	858校	417校
厚木市	23校	13校

2 教科に関する調査結果について

【平均正答率】

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
全 国	72.9%	55.5%	78.1%	58.2%	79.4%	51.0%	67.4%	59.8%
神奈川県	71.3%	54.6%	76.9%	58.6%	79.2%	51.5%	67.0%	60.8%
厚 木 市	68.4%	52.6%	75.5%	55.0%	77.4%	49.2%	64.8%	58.2%

(1) 小学校国語の主な結果について

- ・新聞の投書を読み、表現の仕方を捉えることは7割以上の児童ができています。
- ・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書くことに課題があります。

(2) 小学校算数の主な結果について

- ・小数第1位までの減法、商が小数になる除法、異分母の分数の加法の計算は8割以上の児童ができています。
- ・示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述することに課題があります。

(3) 中学校国語の主な結果について

- ・必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出すことは約8割の生徒ができています。
- ・資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことに課題があります。

(4) 中学校数学の主な結果について

- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることは、8割以上の生徒ができています。
- ・予想された事柄が成り立つかどうかを判断し、その判断の理由を説明することに課題があります。

3 児童・生徒質問紙調査の結果について

教科の正答率が高い児童・生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する傾向が高い設問は、主に次のとおりです。

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。
- ・授業の中で分からないことがあったら、自分で調べる。
- ・国語の授業で資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。
- ・国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
- ・国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。
- ・国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる。
- ・読書は好きだ。
- ・算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・算数（数学）の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- ・算数（数学）の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えている。
- ・算数（数学）の授業で学習したことを生活の中で活用できないか考える。
- ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

(2) 家庭学習・学習時間等

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・ふだん（月～金曜日）、携帯電話で通話やメール、インターネットをしている時間が1日当たり1時間未満である。

(3) 基本的な生活習慣、家庭でのコミュニケーション

- ・毎日、朝食を食べている。
- ・毎日、同じ時刻に起き、同じ時刻に寝ている。
- ・家の人と学校での出来事について話をしている。

(4) 自尊感情、規範意識

- ・友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意。
- ・難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している。
- ・学校のきまりや規則を守っている。

4 今後の課題等

- (1) 厚木市の児童・生徒については、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」「人の役に立つ人間になりたい」と回答する割合が高いことや、「学校へ行くのが楽しい」と思う児童・生徒が前年度に比べて増え、「自分にはよいところがある」という自尊感情が高まりつつあるなどの好ましい傾向が見られます。

そこで、各学校では、引き続き児童・生徒の自尊意識を高めるような指導を充実させることが大切です。
- (2) 通常の生活の中で携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている時間が多い傾向が厚木市の児童・生徒には見られます。また、ゲームをする時間が一日2時間以上を占める児童・生徒の割合が、前年度に比べて増加し、全国平均に比べても大変高くなっています。

一方、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童・生徒や、学校の授業の復習をしている児童・生徒、新聞を読んでいる児童・生徒の割合は、厚木市は全国に比べて低い状況です。

このことを踏まえ、各学校は、保護者との連携・協力を更に図り、情報機器の利用の正しい心構えとともに適切な家庭学習の習慣が身に付くような働きかけを一層充実させることが重要です。
- (3) 勉強の大切さや将来への必要性を感じている厚木市の児童・生徒の割合は大変高いが、全国との比較で見るとやや下回っている状況です。

各学校は、これからも引き続き基礎学力を身に付けさせるための指導を充実させるとともに、「勉強が好き」という気持ちが育つような魅力ある授業を工夫することが重要です。